

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	社会学部
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況(院)

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 国際化・グローバル化に対応した教職員スタッフの充実	→ 外国籍教員および外国での教育・研究歴をもつ教員の比率	B	B	B	B	B
2. 国際化・グローバル化に対応した教育課程の充実	→ 国際化、グローバル化などに対する理解を深める科目の設置	B	B	B	B	B
3. 国際化・グローバル化に対応した学生受入体制の充実	→ 受入時のオリエンテーション、学期途中・期末における出席/成績管理、アンケート調査・面接による実態調査など留学生受入体制の整備	B	B	B	B	B
4. 国際化・グローバル化に対応した語学能力の涵養	→ 必修科目「英語表現」において学生の使用言語も英語に限定する	B	B	B	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 外国人教員比率は11.3%と、昨年より1.9ポイント下がっている。教員の海外派遣は60人・20ポイント増で、海外出張の増加によるものと思われる。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 昨年度からの、フルブライト米国教員の受入による、英語での授業の実施など、国際化への積極的な面は評価できる。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 海外客員教員の招聘など積極的に行う。また、学院留学も一定数推進する。	☆
		その他	☆

目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 現状は、3系7領域のうち1領域を「グローバル社会領域」とし、国際化・グローバル化の理解を深める科目として設置している。また、マウントアリソン大学と協定し、ダブルディグリー制度を導入している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 現在、2016年度から導入予定の新教育課程に、専門教育科目を英語で学べるよう、「Sociology in English」の分野の科目を導入するようWG活動により推進している。</p> <p>その他</p>	☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 現在、学部国際交流委員会を学部に設置し、2012年度には外国人留学生についてアンケート調査を実施した。教職員と外国人留学生の懇談会を実施するなど、留学生の受け入れ体制の整備を進めている。2014年度受入外国人留学生は43名で昨年度より13ポイント増加した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 懇談会は、外国人留学生との親睦を深め、学部の所属意識を高める役割を果たした。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度には、懇談会に加えて、ピアサポート活動の一環として、日本人学生と外国人留学生との交流パーティを実施し、学生間での交流を深め、広げる予定である。</p> <p>その他</p>	☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2013年度から、英語カリキュラム改革が実施され、英語・英語表現両科目において教員・学生の使用語を英語とした。さらに、共通教科書(英語のみ)、ティーム・ティーチング、社会学に近い授業内容などを導入し、学生がグローバルな環境で活躍できるように必要不可欠と見なされるアカデミック英語運用能力向上に、現在取り組んでいる。本年度から上級学年へも対応する英語改革を進めている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 一部のクラスでは、英語のみの授業についていけない学生がいるので、別の対応の検討も必要である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2016年度からの新教育課程導入において、「英語を学ぶ」と「専門教育科目を学ぶ」を同時に行えるカリキュラムの検討と、そのための英語力を備えた学生の育成を行う教育課程の検討を課題としている。</p> <p>その他</p>	☆
備考			☆

## 《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【社会学部】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	3	3	3	3	3	2	5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	3	3	3	3	3	2	5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	41	37	42	37	38	43	・5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的
			交換	人	—	—	—	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	1.5	1.3	1.5	1.3	1.4	1.6	外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国数	国	—	—	—	—	—	—	累計数	
		人数	長期	人	14	23	28	24	29	—	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	28	33	53	51	63	—	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.5	0.8	1.0	0.8	1.1	—	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		1.0	1.1	1.9	1.8	2.3	—			
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	1	0	0	0	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	1	1	2	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	1	2	1	1	—	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	37	54	70	50	60	—	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	0	0	0	0	0	—	・累計数 ・春・秋の合計	
指標8	外国人教員比率		%	11.1	13.5	14.8	13.2	13.2	11.3	・5/1現在	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)

※指標7「国連ボランティア(UNV)の参加者数」は2013年度から国際社会貢献活動参加者を含む。また国連ボランティアは2013年度より国連ユースボランティアとなった。